

2025 年 6 月 29 日午前 10 時 30 分

聖霊降臨節第 4 主日 主日礼拝

司会 田村 啓

奏楽 徳江由利

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前 奏

招きのことば ヨハネ 3:5-8(抜粋)

讃美歌 347(1,3,5)「たたえよ、聖霊を」 一 同
交読詩編 67:1-6(P.74/70)

祈 り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

妙高高原教会 巻祝福教会 前橋教会
(主の祈り)

讃美歌 348「神の息よ」 一 同

聖 書 旧約:イザヤ 60:19-22(P.1161)
新約:フィリピ 2:12-18(P.363)

メッセージ『その日のために』

祈 り 川上 盾 牧師

讃美歌 417「聖霊によりて」 一 同

献 金 一 同
(献金感謝の祈り)

信仰告白(前橋教会信仰告白 A) 一 同

頌 栄 347(6)

祝 祷 川上 盾 牧師

後 奏

報告・紹介

＜招きのことば＞ヨハネ 3:5-8(抜粋)

人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。…だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。…風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。

《6 月礼拝当番》 徳江由利 岡安茂能

伊藤曉啓 藤岡純子

田村佳奈 渡辺雅之

《今週の集会・行事》

◎ 本日 15:00 群馬町教会牧師就任式

副牧師の鶴崎牧師が、主任担任教師として就任されます。

◎ 本日楠元伝道師は、松井田教会礼拝応援

◎ 30-7/1 牧師、全国同信会委員会(大阪)

◎ 7/2(水)10:30 & 19:30 聖研祈祷会

◎ 7/5(土)10:00 会堂清掃 B 組

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『心の豊かさって何だ?』

聖書:旧約:申命記 26:5-11(320)

新約:Ⅱコリント 8:1-15(P.333)

讃美歌 1(1-3), 344, 512, 1(4)

交読詩編 14:1-7(P.19/15)

司会:岡安茂能 奏楽:徳江由利

*7 月定例役員会

《予 告》

◎ 紅雲町集会 7/10(木)10:30 教会で開催

◎ 創立 139 周年記念礼拝 7/13(日)10:30

メッセージ:田中浩一郎牧師(秦野教会)

◎ 婦人会例会(映画会) 7/17(木)10:00

『オットーという男』(2022 年アメリカ映画)

《報 告》

◎ 7 月に入ります

6 月末ですすでに猛暑の夏の日々が続きます。7 月もいくつかの教会行事を予定しています。

*創立 139 周年礼拝(7/13) 前橋教会出身の田中浩一郎牧師(神奈川・秦野教会)を迎えて行ないます。朝の C S 礼拝からお話を担当して下さい。礼拝後は浩一郎さんを囲んで昼食会を予定しています。

*婦人会例会(7/17)1000 映画『オットーという男』(2023 年/126 分)の上映会です。人生に絶望した偏屈な初老の男が、奇妙な隣人との出会いの中で人生の変化を感じていく…決してシリアスではなく、ユーモラスで心温まるアメリカ映画です。男性の方もぜひどうぞ！

開始時間がいつもと違うのでご注意ください！

*CS 夏期キャンプ(7/25-26) 今年も赤城バイブルキャンプ場で開催します。今年は金へ土の開催です。詳しくはチラシをご覧ください。

◎ “牧師 J A Z Z II” 感謝のうちに終了！

皆さまの協力をいただき、盛会のうちに終了することができました。森下滋牧師には礼拝のメッセージ・奏楽から、コンサートでのピアノ演奏まで、すべてにわたってお世話になりました。チケット売上・募金合わせて 115,543 円の純益は、パイプオルガン修復の費用とさせていただきます。



《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主 日 礼 拝	53	20	44,876
牧師 JAZZ	83		

《メッセージ》「愛は絆」 森下滋牧師

コロサイ 3:12-15(6 月 22 日)

▼最初にひとつの問いを投げかけたい。私たちの頭の中は、あまりにも多くの言葉に埋め尽くされてはいないだろうか。特にプロテスタント教会は、言葉以外の要素も重んじるカトリック教会や、リスト教会に比べて言葉が多過ぎるように思う。▼言葉は場合によっては人を傷つける。コロサイ書の「口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい」という言葉をしっかりと受けとめたい。ある意味では言葉がない方が平和なのかも知れない。しかし、なかったら、愛を表現することも難しくなる。とかく言葉は取り扱いがむずかしい。▼韓国に留学していた頃、社会が反日ブームに流れた時期があった。自分の孫に対して反日の意識を語る女性の姿を見て、悲しい思いを抱いた。しかしその元をたどれば、日本人側の態度に問題があるのだろう。批判に対して真摯に応えようとする人を悪く思う人はいない。誠意ある言葉をたずさえて、本音を語り合える関係を目指したいと思う。▼現在の私の働きの場である私立男子中学・高校の現場では、受験に失敗した恨みを抱く生徒が多く、人に対しても自分に対しても本音を語れない。自分と他者、愛すべき存在がばんやりとしか見えていない。そんな彼らと、性についても避かず語り合う中で、本当に愛すべき存在が見えてくる。▼「君は愛されるために生まれた」という歌が流行った時、「愛されるために…」という表現に違和感を覚えた。私たちは「愛されるため」と対象化された者としてここにいるのではなく、「すでに愛されている者」として今・ここにいるのではないかと、思うのだ。「私はあなたを愛するよ」との神の思いを、素直に受けとめたいと思う。▼「私は神さまに愛されている」その思いの中から、やがて互いに少しずつガマンする心や、人に対して赦す心が生まれる。自分のためだけでなく、人のために生きる道に進みたいという意識も生まれる。そのようにして生きる姿を、パウロは「愛を着る」と表現する。愛を着る、それは愛を身体化することである。▼續けてパウロは「愛は、すべてを完成させる絆」と記す。大切な言葉だと思いつつ、一方で昨今の「絆」という言葉の用いられ方に問題点を感じることがある。震災などが起こるたびにこの言葉が急に用いられる。「私たちは関心を持ちますよ！…ただし手をつないでいる時だけよ…」という態度が透けて見え、やがて忘れられていく気がするのだ。▼パウロの示す神の愛、それは絶えることのない愛である。墮落した人間をも愛して下さる神の愛。その愛に私たちはふさわしく応えているだろうか。▼私たちは神を(誰かを)愛したいと思っているだろうか。「愛したい者がいる」そのような思いを抱く時、私たちは素直に悔い改めへと導かれる。「愛を着る」という生き方を大切に求め続けたい。